

■巻頭言

ネットワーク、コンピューティング、 セキュリティとITC



■ITC所長 赤木 完爾

2011年10月からインフォメーションテクノロジーセンター（ITC）所長に就任いたしました。顧みれば本塾大学に奉職以来、研究教育の本務以外では、計算センター、メディアネット、ITCにいたる関係部門が変容し発展する過程で、三田キャンパスにおいて、学部・研究科とこうした部門をつなぐ仕事を続けておりました。

1990年代なかば以降、研究と教育はコンピュータとネットワークを中心とする情報技術に寄り添って展開することとなり、情報技術はすでに大学のみならず、社会生活の基盤となっていることは改めて指摘するまでもありません。

こうした状況のなかで、本塾のITCの活動領域は大きくみると二つあります。一つは全塾を結ぶネットワークの構築・維持・強化であり、今ひとつは研究教育や事務、経営管理に関わるコンピュータの活用の支援です。

近時のITCの主な事業を例示すると、新たな無線LANの全キャンパス対応によって、スマートフォンの爆発的普及や携帯端末の高度化に対処しようとする取り組みがあります。これは情報技術の急速かつ高度な進展に膚接しつつ、ネットワーク基盤の強化をめざす努力の一環です。また東日本大震災の教訓を踏まえて、災害時における学校法人としての事業継続性を確保するために、重要データの遠隔地保管や安否確認システムの構築にも取りかかっています。さらにこれらと表裏一体の関係にある共通認証システム（keio.jp）の強化発展にも力を注いでいます。もとよりITCの事業はこれらにとどまるものではなく、塾生や教職員の身近にあるクライアントおよびサーバ機器などの更新、各種業務におけるコンピューティングや一貫教育校の情報環境向上に関わる支援、ネットワーク利用時におけるコンプライアンス強化への啓蒙活動などが粘り強く取り組まれています。

他方、情報セキュリティに関する総合的な方針の構築は、ITCの業務として未だ実現をみておりません。6キャンパス、10学部、14研究科、一貫教育校8校、その他様々な部門を擁する多様性に富む本塾において、自由闊達な研究教育の展開と、安全で安定した情報基盤の確保をめざすセキュリティの構築とは、均衡させることが大変難しい課題です。しかしながら、研究教育や事務、経営管理の利便性を確保しつつ、ネットワークを介した本塾と社会、さらには世界との関係において、情報セキュリティの確立は急がねばなりません。この問題に最適解を導くことは容易ではありませんが、実効性を常に意識しつつ、塾内各部門の協力を得て、実現をめざして努力したいと考えております。

本塾の規模からするとITCはごく少人数の組織ですが、情報技術について我が国でも有

数の高度な専門知識を有し、それを応用して実行する能力をもつ部門です。その一端は本年報に記されている震災対応でも明らかです。情報技術の最先端に通じ、かつ情報基盤の利用者の視点に立った、開かれたITCの実現に向けて、教職員・スタッフ一丸となって工夫と努力を重ねたいと念じております。関係各位のさらなるご助言、ご助力をお願いする次第です。